

# EYE LINK

FREE PAPER

テーマ

## 専門医制度で

## 眼科医療はどう変わるか？

～公益財団法人日本眼科学会理事長 山下英俊 先生に聞く～

第69回  
日本臨床眼科学会  
The 69th Annual Congress of Japan Clinical Ophthalmology

### 眼科医療の最先端

69th  
RINGAN  
2015



日本眼科学会評議員  
富山大学医学薬学研究部  
眼科学講座教授

林 篤志

日本眼科学会理事長  
山形大学医学部長  
眼科学教室教授

山下 英俊

日本眼科学会評議員  
金沢大学医薬保健学域  
医学系視覚科学教授

杉山 和久

健康長寿に貢献する医療をめざす。  
専門医の見直しでより質を高め、



テーマ

専門医制度で

眼科医療はどう変わるか？

～公益財団法人日本眼科学会理事長 山下英俊 先生に聞く～

平成 27 年 4 月から、日本眼科学会の理事長に山下英俊  
山形大学医学部長・眼科教授が新たに就任した。公益財  
団法人に変わって 2 年余り、日本眼科学会はこれからどん  
なことに取り組んでいくのか。金沢大学の杉山和久教授、  
富山大学の林篤志教授と話し合っていた。

(於：平成 27 年 10 月 22 日 名古屋国際会議場)

## 眼科のプレゼンスを いかに高めるか

**林**●山下先生は、日本眼科学会の常務理事を長く務められ、平成27年4月に理事長に就任されました。今日は、これからの日本の眼科医療や眼科学会の方向性などいろいろ伺いたいと思います。まず理事長になられて、どんなことに取り組んでいきたいとお考えですか？

**山下**●日本眼科学会は、平成25年に財団法人から公益財団法人に変わりました。公益法人は、基本的に社会にどう貢献していくかが問われる組織です。まず考えないといけないのは、学

会としての社会的な責任をどう果たしていくかです。それは、眼科のプレゼンス（存在感や影響力）をいかに高めていくかということでもあります。

眼科学会は非常にまとまりがあつて、国民の視覚や目の健康を守るためのアピールポイントをたくさん持っています。先達が蓄積してきたものをアピールし、提供する眼科医療のレベルをいかに高めていくかに神経を注ぎたいと思っています。もう一つは、その目的を果たすことをベースに診療報酬を確保することも、理事長として私の責務として重要だと考えています。

**林**●学会活動のなかでも今、専門医制度が大きな問題としてクローズアップ

されていますが、それについてはどうお考えですか？

**山下**●私は、眼科の専門医制度は非常に洗練されたレベルの高いものだと自負しておりますが、平成26年度から各学会がバラバラに認定していた専門医を、日本専門医機構という第三者機関が入って見直すことになりました。専門医機構が認定する専門医とは、それぞれの診療領域における適切な教育を受けて、十分な知識・経験を持ち、患者から信頼される標準的な医療を提供できる医師と定義されています。眼科に置き換えれば、標準的な治療を眼科全般にわたって広く、きちんと理解し、患者に説明できる医師であり、医療として提供することです。そのコンセプトに沿って専門医を見直すことが骨子になっています。

### 専門医制度を見直し、 質を向上

**林**●今、専門医である人、これから専門医を取ろうとする人が、専門医を取るまたは継続することが難しくなるのかどうか、それが一番気になるかだと思います。

**山下**●基本的にコンセプトは変わりません。特別難しくなるわけでもないと思います。ただ単位の取り方とか、申請の書類が変わるとかそういうことはあります。以前から行っている臨床研修を積んで地域医療に貢献して、必要な医療安全とか感染対策、医療倫理をきちんと勉強しながら更新していく。基本的にそのやり方は継続していくと思います。

**杉山**●日本専門医機構をつくることで、診療科を越えた画一的なというか、内科も外科も眼科も、同じようなシステムにしようということなのですか？

**山下**●見方によっては画一的に思われるかもしれませんが、大きく違うのは基本領域での18診療科プラス総合診療科の併せて19のうちから、どれか一つ専門医を取らなくてはいけないことです。それが1階建て部分です。2階建て部分は、内科専門医プラス循環器というように、1階建てで専門医をとって、サブスペシャリティとして専門領域を取得するシステムになります。それを一つのルールにしたことが、これまでとの最大の違いです。た



山下 英俊 Hidetoshi Yamashita  
日本眼科学会理事長  
山形大学医学部長・眼科学教室教授



杉山 和久 Kazuhisa Sugiyama  
日本眼科学会評議員  
金沢大学医薬保健学域医学系視覚科学教授

だし眼科の場合は、もともと専門は一つしかありませんから2階建て部分はなく今までと大きくは変わりません。

**林**●プログラムに関しては、これまで学会が自立的にやっていたわけですが、それはどうなるのでしょうか？

**山下**●眼科のプログラムは現在、作成している段階です（その後、平成27年12月に承認されました）。診療科によって学び方は違いますから、機構がすべてをやるわけではないと思います。たとえば内科と産婦人科、眼科では、教える内容も、学び方も異なります。それに合わせたプログラムをつくり、試験や単位の取り方を

一つの標準パターンにして機構が承認する形になるのではないかと考えます。プログラムによって教育し、評価をし、認定して、更新する。これを学会が行い、機構が承認する形式があるプログラムを一定レベルで統一しないといけないので、学会と機構側で調整する必要があります。学会は、社会に向かって責任を果たすために適正な組織にする必要があります。

上位下達ではなく、機構は一般社団法人として社員がつくり、運用するようになっています。要求しているところ

**杉山**●眼科学会がいいのは、会員が

1万40000〜50000人いるなかの7〜80000人が日本臨床眼科学会、6000人ぐらいが日本眼科学会総会に参加するなど非常に出席率が高い。出席している人が情報を共有してアップデートできるわけです。私たち現場が懸念するのは、新しい制度に変わること単位取り方が違ってきて、出席者が減るのではないかということです。できれば今のようになくさんの人が学会に出席できるシステムにしてほしいと思います。

**山下**●大事なご指摘です。日本眼科学会は、先生がおっしゃるように情報伝達の重要な場ですから、会員はいつ

も有益な情報を収集して臨床の現場にフィードバックしていくのが理想です。大切なのは、現場の医師が今何を欲していて、それがどういう形で役立つっていくか。機構ではなく、現場の先生方しかわからないことがあるわけですから、それを何としても堅持していきたいと考えています。

### 眼科医療は健康寿命に貢献

**林**●日本の医療のなかで、眼科が今後どういう方向に向かっていくかも興味のあるところです。眼科の病床数を減らすことも具体的に検討されているようですが、今後の見通しについてはい



かがですか？

**山下** ●眼科医療のプレゼンスをどう上げるかは、眼科医会と共同で運営している日本眼科啓発会議で議論しているところですよ。一つのカテゴリーとして小児眼科を増やす。もう一つは高齢化社会になるなかで、健康寿命を延ばし、介護を必要としない自立した生活を送るために、眼科医療の重要性を訴えていくことに力点が置かれています。健康寿命については、

糖尿病や高血圧などの全身疾患と網膜疾患は密接に関係しており、補完的な医療としてだけではなく、視覚を守ることは大事であることをきちんと訴える。眼科医療の目的は見えること。見えることで健康寿命を延ばす、ポジティブな生き方につながる。それを私たち眼科医が担っていることをアピールして、眼科の地位向上と医療費の確保につなげたいと考えています。

**杉山** ●健康寿命は今後、ますます大事になると思います。健康寿命を寿に近づけるには、眼科医療はとても重要です。見えないと介護が必要になりますし、介護にはお金もかかりま

す。経済的な観点からも、眼科医療の貢献度は高いと思います。

**林** ●もう一点、地方大学における診療、研究、教育に対してのお考えを聞かせてください。

**山下** ●今「一億総活躍社会」が言われていますが、それを支えるのはまさに地方の「人材」だと私は考えます。東大や京大などの旧帝大だけが日本を支えているわけではありません。昨年、ノーベル賞を受賞された大村先生、梶田先生とともに地方の国立大学出身です。私は、これからは地方の大学から日本を支える人材が育っていく時代が来ると考えています。国には、日本全体の戦略（戦略）の中で、地方大学をどう位置付けるかを考えてほしい。地方がもっている特色のある診療、研究、教育を国が支えていく仕組みを考えないと社会に貢献できる人材は育っていきません。国には、社会に貢献できる人材を地方から育成していく仕組みにつくり替える目をもっとほしいと願っています。



林 篤志 Atsushi Hayashi

日本眼科学会評議員  
富山大学医学薬学研究部眼科学講座教授



テーマ

## 専門医制度で 眼科医療はどう変わるか？

～公益財団法人日本眼科学会理事長 山下英俊 先生に聞く～

# 地域医療最前線

北陸地区には大学病院と共に地域眼科医療の担い手病院がある。今回は地域の眼科医療において最前線で活躍されている医療施設の眼科医師に現在の診療状況についてお聞きした。

## 富山県済生会高岡病院

〒933-8525 富山県高岡市二塚387-1  
TEL.0766-21-0570

### 外来スタッフの紹介

外来スタッフは、医師1名、視能訓練士1名、看護師1名、医療事務1名です。その他、富山大学から手術応援医師の派遣と月1回の頻度で教授外来を行っています。

### 診療実績について

平成26年度の外来患者数は延べ5,720人でした。平成26年度の手術件数は152件で白内障手術が104件で、抗VEGF薬硝子体内注射が43件でした。さらに平成27年度4月から9月までの上半期では、手術件数は90件で白内障手術は56件で抗VEGF薬硝子体内注射は33件でした。

### アピールポイント

当院は高岡市の南部に位置し、急性期病院としての役割を担うだけでなく、地域住民のかかりつけ医としての側面を持ち合わせています。眼科も含め多くの診療科が午前のみならず、午後の外来を行っています。微力な私としては、患者の言葉に真摯に耳を傾け、わかりやすい診療を心がけるようにしています。また、治療に悩む症例については、教授外来に受診していただき、網膜硝子体の手術症例や救急症例は病棟連携を通じて富山大学をはじめとする近郊の病院に紹介しています。この場を借りて各病院の先生に感謝申し上げます。今後もう少しでも地域医療に役立てるように努めたいと考えています。



視能訓練士 上野雅美  
矢野宏樹 先生

事務 藤村夕子  
看護師 北村美幸



眼科部長  
研究部部長  
**矢野 宏樹**  
やの・ひろき

【専門分野】  
眼科一般  
【認定資格】  
日本眼科学会専門医



## 加賀市民病院眼科

〒922-0057 石川県加賀市大聖寺八間道65  
TEL.0761-73-5812

### 眼科スタッフの紹介

Dr. は私1人で、ORT、看護師は各2人です。

### 診療実績について

外来患者数は月約1,000人、手術は白内障、眼瞼下垂が主で年間約300件です。

### アピールポイント

極小切開白内障手術はかなり早くから、眼瞼下垂手術もミューラータッキングが流行る前から行っていますが、術者が増えた最近ではあまりアピールポイントになりません。ただ細部に関してはかなりこだわりをもっています。

最近こつてることでは、塗抹顕微鏡検査を自分で施行しています。すぐに結果が出るため初期方針をたてるのにももって有用です。

当院で今一番ホットな話題は、今春予定の山中温泉医療センターとの統合、新病院移転です。しかし、市長が選挙時に山中温泉医療センターを残すと言ってしまう(残すと補助金が使えない、しかし残さないと公約違反になり)ぐたくたし、建設会社が人件費資料費高騰を理由に契約額増額(26億6千万円、39%のアップ)を要求してぐたくたし、医者も予定どおりには(ある意味予想どおり)集まらず、非常くぐたくたに香ばしい状態です。眼科に関しても、スペース確保や電カル移行でむにやむにやしたり、いろいろ大変です。



看護師 井斉恵子

助川俊之 先生

視能訓練士 中村真奈巴

看護師 村田貴子

視能訓練士 山内千幸



眼科部長  
**助川 俊之**  
すけがわ・としゆき

【専門分野】  
眼科全般  
【認定資格】  
日本眼科学会専門医  
視覚障害者補装具適合判定医師





# 診療の“コツ”と“テクニック”

## もう少しでできるかも、私のCCCマーカー

とりさき眼科  
鳥崎真人  
とりさき・まこと



**当**院では白内障手術を富山市民病院開放型病床を利用して行っています。自院の昼休み時間を利用して病院へ出向くので、午後の外来開始までもどらなければならず手術が長引くことは極力避けなければなりません。CCC が小さいからと後で払げる時間もかけたくないことから、解決策として考えたのが今回のCCCマーカーです。既存のCCCマーカーを探しましたがよいものがなく、半年考えて作成を「はんだや」に依頼しました。学会のブースで申し込んでから1年半音沙汰がなく、図案を再度提示し第一号試作品ができるまで1年半、改良を加えて今の最終試作品(図)ができるまでに2年ぐらいかかっています。リングの直径は約6.2mmで、線状のマーキングだとCCCラインがみづらいたと考え点状のマーク(術中写真)がつくように依頼しましたが、加工が難しく時間がかかったようです。何とかもう少しで商品化というところまでできていますので、発売されたらぜひ1本といわずに何本でも購入していただければと思います。手術指導の際には結構便利かもしれません。



## 緑内障におけるOCT angiographyへの期待

福井県済生会病院  
新田 耕治  
にした・こうじ

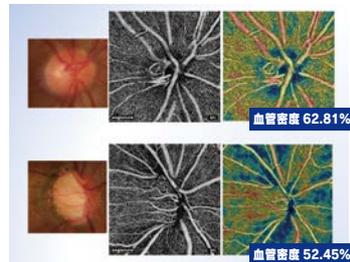


**現**在、臨床応用されているOCTアンジオグラフィーは4種類あるが、ここでは、筆者が用いているOptovue社RTVue XR Avantiを使用したOCTアンジオグラフィーについて述べることにする。なお、本機器は2015年1月より発売された。

眼底内の静止している部分(組織)と動きのある部分(血流)を判別するSSADA原理を用いて、これまで観察できなかった網膜や篩状板内の毛細血管網を描出できる。特定の深さまでの設定した毛細血管網を描出することができるが、緑内障においては、特に放射状乳頭周囲毛細血管層(RPC)は、乳頭周囲の内境界膜～網膜神経線維層までの毛細血管網を描出できる(図1)。本機器には視神経周囲や乳頭内の毛細血管の密度を定量的に分析するソフトも開発されており、まもなく正式にリリースされる予定である。

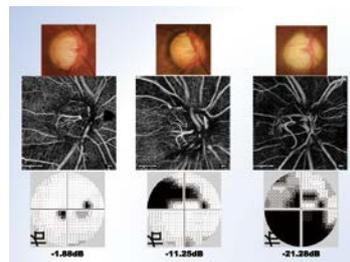
さまざまな病期の緑内障眼のOCTアンジオグラフィーを撮影すると、RPCは病状の進行に伴って、その血管密度は減少することがわかる(図2)。正常眼圧緑内障(NTG)の病態はいまだに不明である。何らかの影響で網膜神経線維が機械的に破綻する可能性や視神経周囲や篩状板の微小循環が障害されて発症あるいは進行する可能性もあり、OCTアンジオグラフィーにて視神経周囲や篩状板内の毛細血管網の状態を描出することでNTGの病態がより解明されることが期待される。

図1 OCT angiography  
(上:正常眼、下:緑内障眼)



正常眼では、乳頭に同心円状に毛細血管網が存在している。乳頭出血(15年の経過観察期間に上耳側11回、下耳側6回)を頻発した楔状網膜神経線維層欠損を有する緑内障眼では、網膜神経線維層欠損部位に一致して毛細血管網の密度低下を認める。上の症例のRPCの血管密度は62.81%、下の症例は52.45%である(プレリリースされたB版を使用して測定。以下同様)。

図2 緑内障眼のOCT angiography



初期(左;血管密度:54.71%)、中期(中央;血管密度:48.61%)、後期(右;血管密度:28.52%)と緑内障の病期が進行するにつれて、RPCの血管密度が低下している。

# 大学紹介

University Introduction

北陸4大学の大学間連携がますます進んでいる。  
今回は金沢医大眼科学講座に現在の診療状況についてお聞きした。

**金沢医科大学病院** 〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学1-1  
TEL.076-286-3511



## 施設眼科スタッフ紹介

金沢医大眼科学講座には助教以上のスタッフが10名、医員4名、視能訓練士10名、研究補助員2名、秘書4名が常勤勤務者として在籍しており、そのうち5名は大学院に在籍している。他に7名の非常勤医師が特殊外来および人間ドックを担当している。

## 外来数、手術数など

外来は月曜日から金曜日の午前午後、土曜日の午前があり、1日平均70名程度が受診し、中央手術部で行う内眼手術は年間約1,500件。

## 来院する患者の特徴

患者は河北郡、能登地区からの紹介が多く、その他北陸3県からの紹介患者も増えている。

## 特に重点をおいている診断/治療

白内障手術により最高の視機能を得るための術前診断、検査、眼内レンズの選択、手術を行っている。術後の視機能は年齢、瞳孔径、等価球面值、残余乱視、角膜多焦点性、高次収差に影響され、同じ術後屈折値であっても期待できる視機能は異なる。これまでに蓄積してきた臨床データと光学シミュレーションから、できる限り高い精度で期待できる術後視機能(裸眼視力、明視域、コントラスト視力、実用視力など)を予測し、その患者さんの生活様式に合わせた眼内レンズ選択を目指している。手術においてもCenturion®

とVerion®の導入により、これまで以上に安全で精度の高い手術が可能になった。また、多焦点眼内レンズの症例は約7%を占めている。視力が良好な症例の手術も増加しているため患者選択がきわめて重要であり、眼光学的な見地から多くの検査を行い、手術適応を判定し、その上で患者さんの希望に沿った付加度数のレンズについて左右の組み合わせを検討し選択している。角膜乱視の症例に対しては、Fine Vision Toricの3焦点トーリック眼内レンズを使用している。



## エピソード、記念すべき事柄

2014年、2015年の2年間で3度の国際学会を主催した。2014年10月に第13回Congress of the International Society of Ocular Toxicologyを金沢で主催した。国内外から多くの眼科医、研究者が参加され、成功裏に終了することができた。眼毒性の分野では、今後も世界に発信できる研究を継続したい。

2015年2月には国内外の著名な電磁波関連の研究者に来ていただき、国際ワークショップを内灘で開催した。眼と電磁波に関する研究は国内では金



アドレナリン $\alpha_2$ 受容体作動薬  
緑内障・高眼圧症治療剤

薬価基準収載

**アイファガン点眼液0.1%**

APHAGAN® OPHTHALMIC SOLUTION 0.1%

プリモニジン酒石酸塩点眼液

処方箋医薬品<sup>注</sup>

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

※効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

資料請求先: 千寿製薬(株)カスタマーサポート室

製造販売元 千寿製薬株式会社

大阪市中央区平野町二丁目5番8号

販売 武田薬品工業株式会社

大阪市中央区道修町四丁目1番1号

2015年11月作成



ISOT (2014年10月)



KMU Workshop (2015年2月)



ICL (2015年12月)



金沢医科大学眼科学講座  
主任教授  
佐々木 洋  
ささき・ひろし

沢医大のみであり、我々の研究が電波利用の世界基準の決定に大きく貢献していると自負している。

2015年12月には米国ハワイ島のコナで第3回 International Conference on the Lens を主催した。世界中の水晶体、白内障研究者が約1週間ハワイ島に集結し、連日有意義なディスカッションや意見交換を行うとともに、交流を深めることができた。白内障分野で基礎研究、疫学研究、臨床研究の全てを行っている研究機関は世界でも珍しく、この分野では金沢医大はグローバルにも高く評価されているので、今後も新しい研究課題に挑戦してこの領域の進歩に貢献していきたい。

金沢医大は紫外線と眼疾患に関する疫学研究を約20年に渡り継続して行っている。2014年には東アフリカ赤道部のタンザニアで約1,200名の調査を行った。50代になると核白内障の有病率が急激に増え、60代以上の多くが手術適応でありながら未治療のまま放置されている実態が明らかになった。今後は調査だけでなく医療支援を含め、アフリカでの眼科医療に貢献していきたいと考えている。



疫学研究 (タンザニア検診)



眼科手術補助剤、硝子体内注用副腎皮質ホルモン剤 <トリアムシノロンアセトド>製剤  
処方箋医薬品 (注意 - 医師等の処方箋により使用すること) 薬価基準収載

**マキュエイド® 硝子体内注用40mg**  
MaQuaid® intravitreal injection 40mg

製造販売元  
(輸入品)



わかもと製薬株式会社  
東京都中央区日本橋本町二丁目2番2号

本剤の「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等の詳細につきましては製品添付文書をご参照下さい。

※資料請求先 わかもと製薬株式会社 医薬学術部



# Trust and Safety

～信頼と安全の思いを込めて～

**TS テイカ製薬株式会社**



〒930-0982 富山県富山市荒川1-3-27 TEL.076-431-1717 FAX.076-431-6707  
<http://www.teika.co.jp> [資料請求先 テイカ製薬株式会社 医薬営業部]

Woofy(ウーフィー)  
テイカ製薬イメージキャラクター

2015.12



新薬で人々のいのちと健康に貢献します。

私たちノバルティス ファーマは、  
分子標的薬や抗体医薬など最新の技術を生かして、  
世界で140もの開発プロジェクトを進めています。  
くすりを必要としている患者さんに、革新的な新薬を。  
ノバルティス ファーマの新薬は、これからも進化を続けます。

 **NOVARTIS**

ノバルティス ファーマ株式会社

<http://www.novartis.co.jp/>



S H O S O

### DISPOSABLE MICROSURGERY KNIFE

## 日本力。

私たちが生産の拠点を置く岐阜県関市は、刀剣の産地として800年の歴史があります。「折れず曲がらずよく切れる」という日本刀の神髄は、日本が誇る鍛造の技術によって、繊細かつ強靱な切れ味となってKAI鍛造眼科メスにもしっかりと受け継がれています。

「匠創」は技術力と創造力を表す漢字を使った新ブランド名で、赤い落款をイメージしたロゴにはKAIのクオリティと誇りが込められています。



SL24

スリットナイフ

販売名：マイクロサージェリーナイフ  
医療機器認証番号：219ABBZX00200000

仕様は変更することがあります

製造販売元

### カイ インダストリーズ株式会社

国内営業部 医療器

〒501-3992 岐阜県関市小屋名1110  
Phone (0575) 28-6600 Fax (0575) 28-6611  
<http://www.kai-group.com/global>

# MANI®

## The Ultimate in Sharpness

# 究極の切れ味



〒321-3231 栃木県宇都宮市清原工業団地 8-3  
お問い合わせ先【眼科営業課】TEL 028-667-9911 FAX 028-667-6177  
8-3 KIYOHARA INDUSTRIAL PARK, UTSUNOMIYA, TOCHIGI, 321-3231, JAPAN  
Phone: +81286677565 Fax: +81286676177

# MANI®

MANI, INC. マニー株式会社

## 講演会スケジュール(2016年2月～)

日程	会名	場所	時間	演者
石川 2016年 2月27日(土)	第21回北陸眼疾患シンポジウム	ホテル日航金沢	17:00～20:10	廣岡 一行 先生 (香川大学)
				毛塚 剛司 先生 (東京医科大学)
2016年 4月3日(日)	第337回金沢眼科集談会	ITビジネスプラザ武蔵	13:00～16:00	未定

日程	会名	場所	時間	演者
富山 2016年 4月23日(土)	第33回とやま眼科学術講演会	ホテルニューオータニ高岡	18:30～20:30	宮崎 千歌 先生 (県立尼崎総合医療センター)
				川崎 良 先生 (山形大学)
2016年 5月22日(日)	第74回富山眼科集談会	富山国際会議場(会議室203・204)	13:00～16:30	瓶井 資弘 先生 (愛知医科大学)
2016年 6月25日(土)	第34回とやま眼科学術講演会	ホテルグランテラス富山	18:30～20:30	緒方 奈保子 先生 (奈良県立医科大学)
2016年 9月24日(土)	第103回富山大学眼科臨床カンファレンス	富山県民会館(会議室701号室)	18:30～20:30	高村 悦子 先生 (東京女子医科大学)
				佐渡 一成 先生 (さど眼科)
2016年 10月22日(土)	第35回とやま眼科学術講演会	ホテルグランテラス富山	18:30～20:30	高橋 広 先生 (北九州市立総合医療センター)
2016年 11月23日(水・祝)	第75回富山眼科集談会	富山国際会議場(会議室203・204)	13:00～16:30	鈴間 潔 先生 (京都大学)
				桑山 泰明 先生 (福島アイクリニック)
2017年 1月14日(土)	第104回富山大学眼科臨床カンファレンス	富山国際会議場(会議室203・204)	18:30～20:30	未定

日程	会名	場所	時間	演者
福井 2016年 5月8日(日)	福井県眼科学術講演会	福井フェニックスホテル	15:00～	鈴間 潔 先生 (京都大学)
				柿崎 裕彦 先生 (愛知医科大学)
2016年 6月4日(土)	福井県眼科医会学術講演会	パレスホテル	18:30～	近藤 寛之 先生 (産業医科大学)
2016年 11月12日(土)	第10回北陸オプサルミックフォーラム	ユアーズホテルフクイ	未定	木内 良明 先生 (広島大学)
				相原 一 先生 (東京大学)
				瓶井 資弘 先生 (愛知医科大学)



抗ヒトTNF $\alpha$ モノクローナル抗体製剤

### レミケード®点滴静注用100

REMICADE® for I.V. Infusion100 (インフリキシマブ(遺伝子組換え)製剤)

生物由来製品 劇薬 処方箋医薬品 (注意-医師等の処方箋により使用すること)

※効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む  
使用上の注意等については、添付文書  
をご参照ください。

製造販売元(資料請求先)  
**田辺三菱製薬株式会社**  
大阪府中央区道修町3-2-10

2015年11月作成

## 患者さんの笑顔と健康を願って・・・

新薬開発の先に見えるもの・・・  
私たちは考えています、  
患者さんの笑顔と喜びを。

「あなたに笑顔」科研製薬の願いです。



**科研製薬株式会社**  
東京都文京区本駒込二丁目28番8号  
<http://www.kaken.co.jp>

最新のテクノロジーと熟練のクラフトマンシップがドクターの要求にお応えします。

株式会社 **エムイーテクニカ**

本社 03-5395-4588 大阪 06-6479-1707  
札幌 011-792-6522 福岡 092-432-3740

<http://www.metecnica.co.jp/>



## 医業経営をトータルに強化 クリニック経営支援

中期経営  
計画策定

収益性分析

マーケティング  
コンサルティング

人材教育  
コンサルティング

株式会社 **メディカ・コンサルティング**  
〒920-0003 石川県金沢市疋田1丁目33番地  
(昌経グループ内)  
TEL:076-252-0162

ホームページ&SNSから医業経営に関する  
情報やセミナー情報を随時配信しています。

